

# 初めの1歩は知ることから

取材  
企業名

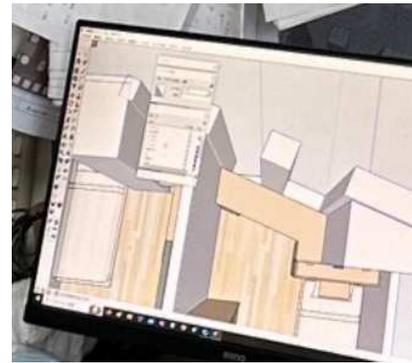
株式会社家具工房ゆうき

高校名

学校法人愛知学院  
愛知高等学校

## 事業内容

- オーダーメイド家具製造及び販売から家具の修理、内装仕上げ工事の企画デザインプラン設計など幅広く手がける
- 3Dパースや3DCADを使った設計
- 廃材を利用した商品開発やオリジナルブランドの製造・販売



## SDGsの取組を始めたきっかけ

自然の中で長い年月をかけて育つ木、需要と植林のバランスが保てず今や資材不足に陥ってしまった木材、原材料の高騰は製品価格だけでなく、オーダー数の減少が技術伝承の機会を奪ってしまう事にも…そこで、SDGsを利用した付加価値をつけることを考えた



etc..



↑  
オーダーメイドだからこそできる、  
車椅子の人のための机設計

←  
様々な材質  
で作られた  
万年筆

## SDGsの取組について

- ◆ 中学生に向けて木工職人としての講演を行う
- ◆ 女性職員のやりたいという意志を尊重し、男性がやるべきものと考えられていた作業を安全面に十分配慮して作る(ジェンダーバイアスを無くす)
- ◆ 余った端材を使った商品開発
- ◆ 梱包材にリサイクル毛布を用いたプラスチックを使わない取り組み
- ◆ 誰一人取り残さない、自社の制作に他の企業の(昔ながらの高度な) 技術を取り入れ、存続させる
- ◆ 古い技術を活かした新しい商品の開発

## 取組を進めていく上での課題やさらに進めていく為の今後の展望

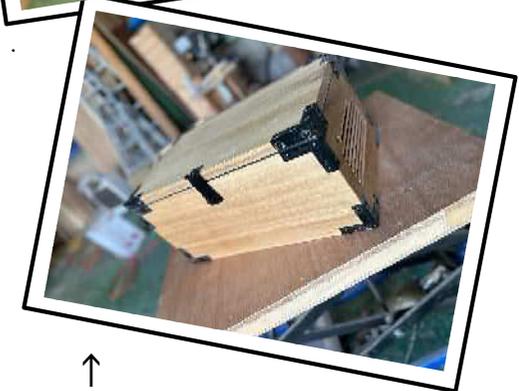
- 失われつつある技術(古くから日本にあるもの) を生かした商品開発
- どこへ落ちてでも自然に還るサステナブルな木材でプラスチックでしか作れなかった物を作る(木の可能性を広げる)
- 小さなことから始め、賛同する人を増やし、理解を深める、全体での取り組み(企業ぐるみでの協力)が必要→木材加工技術で作った名刺から情報発信
- 国産材を最低でも60%は国内で消費する世の中に

## 資本主義社会のモノづくりへの影響

かつて、イギリスで起こった産業革命の結果、安価ながら粗悪な製品が大量に生産され、職人の技術や手工業の温かみ、労働の喜びさえも忘れてしまった。そこで始まったのが**アーツアンドクラフツ運動**(手仕事による制作活動を取り戻し、同時に**QOL向上を図る**) 今の日本社会は、まさに同じ状況下だと考える。今こそ、問題に気づき、行動を改める時!



↑  
梱包材に、  
リサイクル  
毛布を用  
いる



↑  
桐で作った  
持ち運べる  
冷蔵庫

## 訪問取材の感想

今回このような積極的にSDGsに取り組む企業への訪問機会を設けてくださった愛知県の方々、企業の皆様に感謝します。様々な業種の企業がどんな取り組みをしているか学ぶことで、未来を生きる一人として何ができるのかを考えるヒントになりました。

そして、どの企業も社員さんを大切にしている職場環境があり、皆さん一人一人が生き生きと仕事されているなと感じました。企業紹介を聞いて、働きがいを感じられそうな仕事であったり、コミュニケーションの取りやすい空間が作られていたり、互いを深く信頼する関係があったりと企業の土台がしっかりされているなと思いました。

私は今回、家具工房ゆうきさんに取材に行き、木に対する愛、モノづくりに対する愛が溢れたお話を聞かせて頂きました。私は本気で好きだと思える事を職にし、情熱的に仕事についてビジョンを語る姿に憧れを感じました。

「モノづくりには作り手の命(多くの時間)が費される」これは私の心に強く刺さった言葉です。モノづくりは作り手の愛情が込められ、唯一無二のモノが作られる。だから温かみを感じられ、モノをより大切にしたいと思える。しかし現代社会は安い物を買って求め、すぐに新しい物に買い換える。そんな大量生産大量消費が一般的な社会。良い原材料を使い、職人によって手作りされたモノを長く大切に使う、そんな社会になればいいなと私は思いました。「自分の好きなものに囲まれた生活は心を豊かにする」これは岡本さんが仰った言葉です。その幸福感を私も沢山の人の人を感じてもらいたいと思います。

そしてもう一つ、私も含め多くの日本人は日本の技術(和紙など)が当たり前でありすぎて、その技術の素晴らしさに今まで気づけなかったが、日本には世界に発信すべきものがある、衰退させてはいけないものがある。そのためには第一に多くの人にこの現状を知ってもらう事が私は大切だと思います。例えば、マルシェなどのワークショップを通じて体験活動を行ったり、職人の方が抱えている問題を発信する場を設け、その場で一緒に問題を考えることが有効なのではないか、また行政がバックアップすることも必要ではないか。今回の経験を通して私はこのように考えました。



## 企業から高校生へのメッセージ

この度は「高校生×あいちSDGsパートナーズ交流会」を通じて取材にお越しいただき、誠にありがとうございました。今回の学生レポーター様との取材を機に、当社の業務内容や木材、製造業のモノづくりに対する信念、社会課題、国の文化、歴史などを学んでいただいたうえで、SDGsへの取り組みや抱える問題について共に意見交換でき、わたくしにとっても意味のある貴重な時間となったことを感謝しております。

また、何よりも次世代を担う学生レポーター様が課題意識を持たれ、持論を形成されたことは、社会全体にも意義のあることだと思います。SDGsの取り組みは2030年は通過点であり、現役の私たちは課題を先延ばしするのではなく、未来を生きる全て(人・動物・植物など)のために常に新しい課題に取り組み、解決策を考えながら進んでいくと思っています。

最後になりましたが、学生レポーター様に。取材レポートが端的で読みやすくまとめられていて、こんな素晴らしい才能をお持ちの方とお仕事できた事、光栄です。今後のご活躍を心より応援させていただきます。